

恋の

池田
和夫

アポリア

恋のアポリア ◆ 目次

一	ユースホステルクラブ	5
二	北海道の旅	43
三	思いを文通に	63

一 ユースホステルクラブ

不安な気持ちを押さえながら体育館に入り、掲示板に経済学科の受験番号E〇一四四を発見した。やった！ ついにやったぞ！ 民主的でマスプロ教育の弊害の少なそうな大倉経済大学に入学することが出来た。十二月には英語力が足らず、あきらめかけたこともあった。漸く再出発することが出来た。大学にはあふれる程の自由と時間がある。以前、川越の会社で働いていた時、地域のサークルで知り合った人の中に大学の先輩である竹田博さんがいた。大学の様子を知りたくて狭山に会いに行き、養老の滝でビールで乾杯し、カツ定食やお茶漬などを御馳走になった。

「池畑君、大学合格おめでとう」

「ありがとうございます」

「七月に会社をやめ、それから本格的に勉強してよく合格できたね」

「二年半近くのブランクがあつて、特に英語はかなり忘れてしまい、母に軽い気持ちで大学に行くのは駄目かもしれないと思わず弱音を吐いたら、もともと大学に行くのは無理だったんだと言われ、何くそ！ 負けてたまるかとやる気に火がついたんです。通信添削や過去の問題、全国模試を受け、全体の様子がわかったのがよかったです。通信添削や過去の問題、全国模試を受け、全体の様子がわかったのがよかったです」

「多分、お母さんはわざと厳しいことを言ったんだろうね。今、妻は実家に帰っていて、予

定日の二月十四日を十一日も過ぎているのにまだ産まれず、奇形児が産まれはしないかとやきもきしているんだ」

「早く産まれるといいですね。ところで先輩はなぜ市役所に勤めようと思ったんですか」

「市役所に勤めたのは、自由な時間を持てると思つて試験を受けたんだ。今では婦人講座などを受けた女性が變つて行くのを見るのが楽しみだね。今の井汲卓一学長は、マルクス経済学を修正した人だよ」

と教えてくれた。家に帰ると翌日には大学から書類が届き、これでやつぱり本当なんだと実感が湧いてきた。数日後大学で入学手続きをし、生協で大学まで歩いて七、八分の所にある山田荘を紹介してもらい、母と一緒に見て契約した。部屋は、四畳半で家賃は月六五〇〇円、共同炊事場を利用するので他にガス代二〇〇〇円と水道代を含む雑費が五〇〇〇円徴収され、電気代は別会計だった。電気洗濯機が使えないので、ビニール製のたらいを家から持つてきて手で洗わなければならない。二月からハガキが七円から十円に値上げされた。

一月二十四日、グアム島で原始生活をしていた横井庄一軍曹（五六）が二十八年目に発見され、二月二日日本に帰国し、大騒ぎになった。彼は、飯に毒が入っていないかと警戒してあまり食べなかった。横井さんにメッセージと下着から洋服いっさいを渡し、差し当たり小

使いとして十万円を渡した。日本では横井さんに対する見舞金が殺到していた。彼は原始生活からいきなり現代文明に触れ、とまどっていた。彼も戦争犠牲者の一人だった。

一九七二年二月三日に札幌冬期オリンピックが開幕し、スキージャンプで笠谷幸生が優勝し、銀は金野昭次、銅は青地清二がとり、日本が金銀銅を独占した。

三月十八日、連合赤軍の一味四人が軽井沢駅の列車内で逮捕され、他の五人は主婦を人質にとつて軽井沢のあさま山荘に立てこもった。五人全員銃で武装している。二十二日午前十一時頃新潟出身の男が機動隊の制止を振り切つて近づき、後頭部を撃たれ、病院に運ばれたが、のちに死亡した。連合赤軍が立てこもるあさま山荘に向けて放水や発煙筒を投げたが進展がなく、二十八日は朝からテレビに釘づけになった。巨大な鉄球をあさま山荘にぶつつけて破壊し、機動隊が突入して人質になっていた三十一歳の女性管理人が無事救出された。犯人五人全員が逮捕され、中には十九歳の加藤倫教とその弟の十六歳の男が含まれていた。内山警視(四七)と高田警部(四二)は、突入して犠牲になってしまった。十人位負傷者が出た。その後、山岳ベースでは十二人が仲間によるリンチなどで殺害されたことがわかった。群馬県沼田市で発見された遺体には、リンチを受けたのち木に縛られ、飢えと寒さで凍死した者もいた。また、妊娠八ヶ月で殺された女性もいた。あまりのむごさに二の句がつけない。

連合赤軍指導者の森恒夫（二七）と最高幹部の永田洋子（二七）は、山狩りをして妙義山麓で逮捕された。翌年一月一日、森恒夫は獄中で首吊り自殺した。

三月十五日、日本政府とアメリカ政府は沖縄返還協定批准書を交換し、五月十五日に沖縄が二十七年ぶりに帰ってくることになった。

三月三十日に秩父を出て国分寺に引越をしたら、桜の花が八分咲きだったのには驚いた。秩父では一、二分咲きだったので、国分寺はかなり温かいあたたと思った。翌日には、隣の部屋に住む福島県郡山市出身で大倉経済大学一年の斉藤清君と炊事場で会った。

「おはようございます。大倉経済一年の池畑です。宜しくお願いします」

「こちらこそ宜しくお願いします。斉藤です。同じ大学一年なのでこれから色々教えて下さい」

「クラブはもう決めたの」

「ええ、グリーククラブに入ろうかと思っています。音楽が好きなので」

「それはいいね。私は旅が好きなのでユースホステルクラブに入ろうかと思っているんだ」

「色々な所に行けていいですね。ちょっと用事があるので失礼します」

「じゃあ、また」